



実験時の交通状況

交通社会実験に伴い、市内十九ヶ所で交通量などの調査を行いました。今回は、調査場所のうち、一番街の交通量に直接関係があると思われる左図の五ヶ所(A~E)の調査結果について分析します。

南向きの交通量

平日は、交通規制が北から南への一方通行であったため、交通量に大きな変化は見られませんでした(同②)。休日(左ページのグラフ①)。休日の一方通行時は、交通量に大きな変化は見られませんでした(同②)。通行止めの際は、合計の交通量が通常時の約

実験中の交通量調査場所



一万台から九千台に減少しています。通常、一番街を通行していた車が周辺の道路に迂回した場合、並行する道路の交通量の合計は大きく変わらないはずですが、約千台の減少は、一番街を通行している通過交通の車が、他の幹線道路などに迂回したためと考えられます。

個別の交通量を見ると、休日のA~Cで変化がありました。Aは、通行止めの影響が出たと考えられます。Cの一方通行のときは、通過交通の車が、社会実験の影響を考慮して迂回したものと考えられます。

北向きの交通量

合計の交通量変化を見ると、平日は、通常時の約一万千台から一方通

行のときの九千台に、二千台以上減少しました(同③)。休日でも、通常時の約一万台から一方通行・通行止めときの七千台に、三千台減少しました(同④)。これは、通過交通が中心市街地を通らずに、他の道路に迂回したためと考えられます。

個別の交通量を見ると、並行する道路のうちA~Eで、実験中の交通量の変化がありました。特に平日のA~E、休日のAは、社会実験の影響で増加したものと考えられます。



一番街周辺の将来像

川越のシンボルであり、観光の拠点となっている一番街。昭和60年代までは人通りが少なく、車の通行だけが多い通りでした。そのため、当時の都市計画では、建物を取り壊して拡張することになっていました。転機が訪れたのは、年号が平成に変わってから。市民・行政が一体となり、都市計画を見直しました。その結果、環状道路(北環状線など)を整備することにより、中心市街地の交通量の抑制を図ることになりました。平成11年、一番街の都市計画道路を縮小変更。一番街周辺を、伝統的建造物群保存地区に決定し、

道路と蔵造りの町並みが保全されることになりました。しかし、川越の知名度が上がったことにより、江戸時代から道幅が変わらない狭い道路は、幹線道路としての交通に加えて、観光の交通も集中する状態に。渋滞の発生や車両と歩行者の交錯など、歩行者・自転車の安全が十分確保できなくなっています。

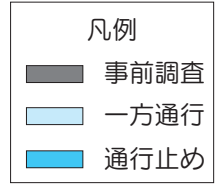
通過交通を減らして危険な状態を解消しようと、市では、市役所前の三田城下橋線など、都市計画道路の整備を進めてきました。また、北環状線整備や、渋滞が発生している中心市街地の交差点改良を進めるための調整をしています。さらに、今回の実験でも行ったように、中心市街地へ向かう観光車両を郊外の駐車場に停めて送迎するパーク&ライドや、自転車通行帯の設置、レンタサイクルなども促進していきます。

一番街周辺は、どのような状態が望ましいのでしょうか？ 市では、今後の方向性を検討するために、今回の社会実験やパーク&ライドなどを実施しました。一番街周辺の交通対策は、将来を考えつつ、方向性を検討することが大切です。これからも、蔵造りの町並みなど歴史的な空間を保全しながら、歩行者の安全と観光拠点としての有効活用を両立できる方法を考えていきます。

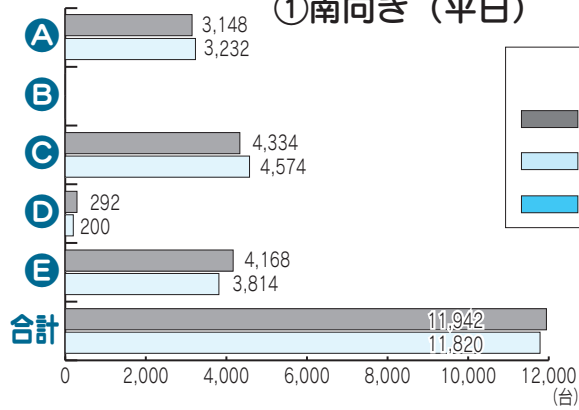
車両交通量調査結果

●午前7時～午後7時までの交通量を調査
●平日は事前調査と一方通行のデータのみ

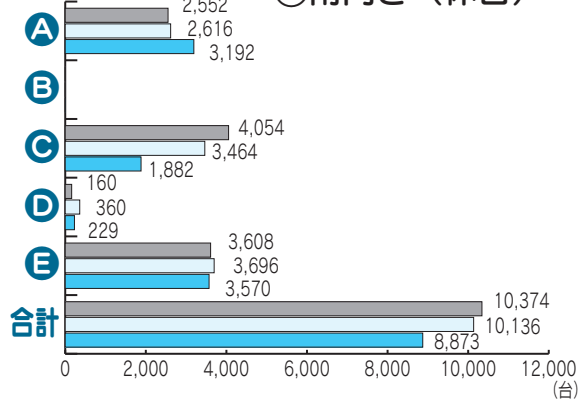
*Bは、北向き一方通行のため、南向きの交通量は無し。
*Cは、南向き一方通行のため、北向きの交通量は無し。



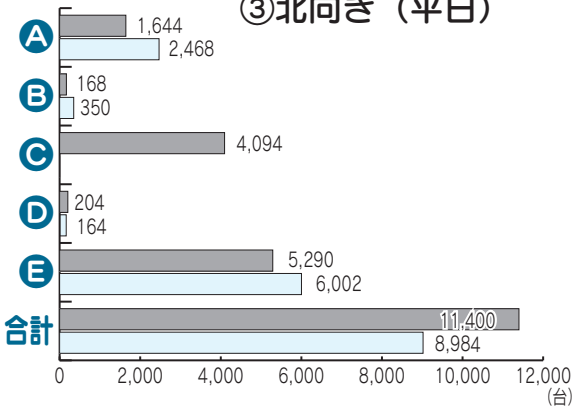
①南向き（平日）



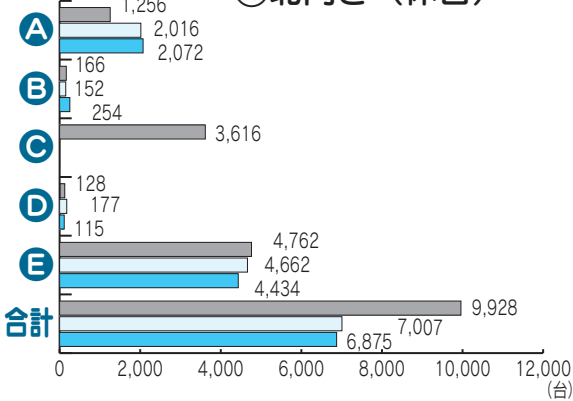
②南向き（休日）



③北向き（平日）



④北向き（休日）



*事前調査の調査日…平日＝10月29日(休)／休日＝11月1日(日)
一方通行の調査日…平日＝11月19日(休)／休日＝11月8日(日)
通行止めの調査日…11月15日(日)



みんなで考える 一番街

一番街の交通について、意見を募集します



一番街は、川越の知名度を全国レベルにした、大きな要因の一つです。一番街の交通は、歩行者の安全などの交通問題、地域住民の皆さんの利便性の問題、通行に伴う振動の問題、町並み保全の問題などを複合的に考える必要があります。

今回の記事では、一番街周辺の交通を考える「材料」を提供しました。そこで、市民の皆さんから幅広く意見を募集します。実験についての意見も歓迎します。みんなで、一番街周辺の交通をより良くする方法を考えてみませんか？

意見の提出方法

住所・氏名・年齢・職業・電話番号、一番街周辺の交通に対する意見、日常生活と一番街周辺のかかわりを明記し、3月1日(月)(必着)までに〒350-8601川越市役所都市交通政策課

*市ホームページからも意見の提出ができます。

意見の取り扱い

意見内容と提出された意見に対する市の考え方を公表します。類似の意見は取りまとめて公表し、個別の回答は行いません。また、個人情報は公表しません。

今回掲載した交通量調査結果は、速報値です。データの分析には、もう少し時間がかかります。また、街頭などで行ったアンケート結果も同様に、現在集計作業を進めている状況です。今後、これらの調査結果は順次公表していきます。

今回の社会実験で交通量調査を行った全ての地点のデータは、都市交

通政策課(本庁舎四階)で閲覧できます。また、市ホームページからも見ることが出来ます。

道路は、出会い、行き交う場所。そこに住む人が、互いの交流をはぐくむために、造られる空間です。道路や交通は、皆さんの気持ちや協力で変えていく事ができるはず。道路とは、人と人のつながりを、形にした空間だから……。一番街周辺の交通は、みんなで考えて、より良い方法を見つけたいと思います。